

大賞



『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷 はるか / 河出書房新社

親の転勤に巻き込まれる形で、思いもよらずインドに住むことになった著者。戸惑いながらの日常の描写は高校生らしい言葉で、楽しかったり考えさせられたりしながらテンポよく読めました。／「今まで常識だと思っていたことって、当たり前じゃないんだ」という感覚。／本を通じて、自分の常識が覆される経験をどうぞ。



著者からのメッセージ

この度は大賞に選んでいただき、大変光栄に思います！
「インド」というと、皆さんはどんなことを想像するでしょうか。以前の私にとっては、とてつもなく遠く、自分とは関わりのない場所でした。しかし、そこに女子高生として飛び込んだときに、わたしが見たもの、感じたこと、過ごした時間を、この本を通して同世代の皆さんにも一緒に出会い、体験していただければうれしいです。そして、遠く思える場所やひとを、少しでも皆さんの心の近くに感じてもらえることを願います。



2位

『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂 康之・林 公代 / イースト・プレス

高校生が開発したさば缶が宇宙食になる！希望があって元気になれるノンフィクションです。／生徒と大人たちが力を合わせて本気になると、こんなこともできてしまうんだ！／高校生の活動が宇宙までつながっている！夢がいっきに広がります。



3位



『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

川内 有緒 / 集英社インターナショナル

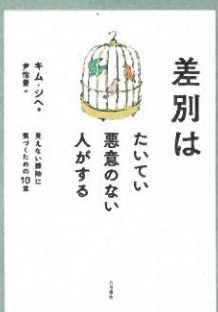
「見えない人がアートを見るの？」タイトルに惹かれました。／目の見えない人に自分が感じたままアートを伝える。アートの見方が変わります。／美術作品を見ながら対話することで、こんなにも自由になれる。この本を読めば、そのかけらが味わえます。



2023 読めBOOKS

『差別はたいてい悪意のない人がする』

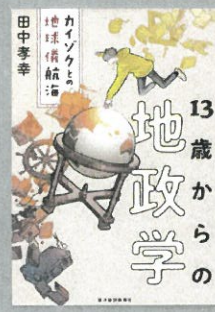
キム ジヘ / 大月書店



自分の中にあるバイアスについて気づかせてくれます。／「差別をしない」とはなんと難しいことだろう。多くの人がこの本にあるように人権について深く突き詰めて考えていけば、社会は変わるのではないだろうか。

『13歳からの地政学』

田中 孝幸 / 東洋経済新報社



世界の仕組みを学んで色々なことを考えるきっかけにしてほしい。／会話形式で書かれていて、読みやすいです。／これから、この不安定な国際情勢を生きていく上で、ぜひ読んでおいてほしいです。

『地球は食べ物』

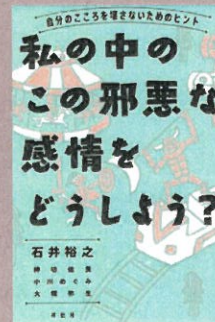
ホモサビ / KADOKAWA



著者は身の回りの虫や魚や木の実や草を、法に反しない限り何でも獲って調理して食べてしまう人気 YouTuber。／著者がどのように生き物と接してきたのかがよく書かれていて、興味深く読みました。／夢中になれることがあるのは羨ましい！

『私の中のこの邪悪な感情をどうしよう？』

石井 裕之・押切 佑美・小川 めぐみ・大槻 弥生 / 祥伝社



他人から受けてしまった悪意がもとでさらに自分を傷つけたり貶めたりしないようにする方法が書かれた本です。／負荷を下ろして生きていくヒントがもらえる1冊。／思春期真っ只中のあなたに、そっと薦めたい本です。